

令和元年度 佐賀県立唐津青翔高等学校 学校評価結果

1 学校教育目標	
<p>「確かな学力と豊かな心、健やかな身体を育み、自主と自立の精神を養い、高い志を持って地域社会に貢献する人材を育成する。」</p>	
<p>校訓：自律・挑戦・感謝 ○自律＝基本的な生活態度と礼儀・マナーを正し、節度と規律ある行動をとる。 ○挑戦＝目標を持って挑戦と努力を継続し、自信を身につける。 ○感謝＝相手を尊重し、思いやりの心で行動し、感謝し、感謝される喜びを知る。</p>	<p>自律、挑戦、感謝の精神で身や心を成長させ、大空(社会)に飛翔する。</p>

2 本年度の重点目標	
『個性を伸ばす学校づくり』	
①自律精神の育成	：挨拶、部活動及び校外活動(社会性)、基本的な生活習慣の確立
②基礎学力の定着	：少人数指導、学び直しの時間、読み書きの力強化
③指導力の向上	：青翔式アクティブラーニング、e-learningによる職員研修、教育相談(不登校、発達障害対応)の充実、ICTの活用、メンター制度、資格取得の推進
④進路指導	：3年間を見通し、目的を持たせる進路指導、各種講演会、校外見学会、学びの基礎診断によるP.D.C.Aサイクルの展開
⑤キャリア教育の推進	：1年・・・「産業社会と人間」、2年・・・「インターンシップ」、「修学旅行」 3年・・・「課題研究」
⑥地域連携	：(総合学科の系列を生かした連携活動) 地域の良さを伝える商品開発・販売実習、玄海町からの制作依頼(美術系)、名護屋城博物館での「日韓交流史」、韓国語スピーチコンテストへの参加、韓国との交流、生活福祉系列の介護実習、環境保護のための活動 (生徒会活動) 玄海町民会議での意見発表、わんぱく相撲や花火大会、福祉施設夏祭り等でのボランティア活動、玄海町産業文化祭への出品
⑦広報活動	：青翔ニュースの、町及び中学校への配布、HPやフェイスブックの充実
⑧いじめの未然防止と早期対応	：SNSに関するHR指導、個人面談、アンケート、人権講演会等

3 目標・評価

①自律精神の育成 : 挨拶、部活動及び校外活動(社会性)、基本的な生活習慣の確立

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○環境整備	・環境美化に関する生徒の意識は向上したか。	・生活環境における生徒の美化意識を向上させる。 ・校内を快適な学習環境となるよう整備する。	・さわやか清掃活動(校外ボランティア活動)を前・後期各1回実施する。 ・ゴミの適切な処理とトイレの使用について指導を徹底する。 ・美化係が中心となり日々の掃除の充実や掃除用具の管理に取り組む。	B	・2回のさわやか清掃活動は天候に恵まれ予定通り実施できた。校外は保育園に絞り、校内の日頃手の届かない場所や体育祭前のグラウンドの除草に重点を置いた。 ・校内でのガムの吐き捨て、ゴミの処理が適切にできていない場面が年間を通してみられたが、改善に至らなかった。	・ボランティア活動は、自主性や責任感等が育ち、思いやりや感謝の心も育つので充実させたものにしていきたい。 ・校内美化、持ち物の整理整頓に対する意識喚起を担任間と協力して取り組みたい。
	●心の教育	・個性を大切にしたい思いやりのある心の育成ができたか。	・クラス担任や学年との情報の共有、保護者・SC・専門機関との連携など協力体制を密にする。 ・HR活動等とおとして、心の安定を図り、コミュニケーションが上手にとれるようにする。	・生徒理解と情報共有のための職員研修や前・後期各1回の教育相談フォーラムを開く。また、SCの助言を得ながら必要に応じて関係機関との連携を図る。 ・心の健康のためのLHRを実施する。 ・コミュニケーション力の向上のための職員研修を行う。	B	・職員研修や教育相談フォーラムなどの一連の行事をとおしては、生徒たちについての情報共有ができていたものの、後期は授業の関係で分掌会議がほとんど行えなかったのも影響し、それ以外の部分において、学年団、担任、生徒指導部、保健師間の情報共有がうまくいかず、対応に苦慮する場面があった。	・職員研修や教育相談フォーラムなどの一連の行事を継続していきながら職員間の情報共有を促進していく。困り感を感じていない(感じようとする)問題を抱えた(抱えている)生徒・保護者への対応方法を考えていく。
	○生徒指導	・対話・会話を重視した生徒指導を実施し、落ち着いた雰囲気で学校生活を送ることができたか。	・だれもが安全に安心して過ごせる学校作り。 ・かわいがられる人財を育てる。	・服装・頭髪指導及び遅刻欠席者への指導を教務部や進路部と連携して段階的指導を行う。 ・毎朝、数名の職員で校門に立ち、挨拶を通して生徒の安全確保と様子を把握する。 ・生徒の様子や変化を見逃さない為に、SHRや昼休みの巡回等に複数的人数で対応する。	B	・学年団との連携を図り、服装・頭髪等の指導を行った。また、年間を通して放課後の再検査指導を実施し、指導を受ける生徒も減少した。 ・毎朝の校門での指導や校内の巡回指導、学校周辺の不定期巡回など生徒の安全確保や生徒の様子を把握することができた。	・職員間での情報共有と、全職員での連携した生徒指導のシステムを向上させていく必要がある。 ・問題発生時には、スムーズな対応ができた。今後も未然防止と、指導体制の強化を図りたい。
	○読書指導	・個性を伸ばすために、本に親しむ生徒を育成することができたか。	・図書館の良さを伝える。 ・青翔タイムで読書に取り組み、読書体験を積む。 ・学校図書館の貸出冊数を、1人平均6.0冊以上に上げる。	・1年生のオリエンテーションで図書館の良さを伝える。 ・図書委員の活動を活性化し、読書に対する広報活動を行う。 ・お薦めコーナーを定期的に更新し新しい本との出会いをつくる。	B	・特設コーナーは定期的に更新し、青翔タイムでの読書を働きかけたが、本の貸出冊数は目標に届かなかった。活用されを改善できない。 ・図書委員は校内読書会の準備や地区読書会など積極的に活動した。	・本に親しむ生徒を育成し落ち着いた生活を送るため年度当初の青翔タイムを一定期間読書にしてほしい。 ・授業で図書館を活用してもらえよう働きかけた。生徒が遠い図書館に行きたいと思う工夫を学年や教科と連携して取り組む必要がある。
	○基本的な生活態度(礼儀・マナー)の育成	・挨拶や敬語を意識した言葉遣いを心がけさせることができたか。	・生徒会、部活動の生徒を中心に積極的に行動し、大きな声で挨拶ができる生徒を増やす。 ・将来を見据えて直さなければいけないところを変えることができるように意識させる。また、自分たちの良さを伸ばせるように積極的に行動させる。	・生徒会、部活動の生徒を中心に行事等の準備、後片付けを積極的に進めさせる。また、HR委員へ協力を依頼し、朝の挨拶運動を行う。 ・正しい言葉遣いを意識させ、進路指導部と連携を取り、進路決定に繋げる。また、行事等で生徒自らコミュニケーションを取り、積極的に行動させる。	B	・朝の挨拶運動を年1回しか実施することができなかった。しかし、生徒会、部活動の生徒で挨拶や敬語を意識した言葉遣いができる生徒も増えてきた。今後は一部生徒だけではなく、学校全体で挨拶ができるようにさせ、丁寧な言葉遣いを意識させる環境を作っていく。 ・生徒会、部活動を中心に行事の準備や後片付けなど率先して動いてくれる生徒も増えてきた。一部生徒だけではなく、学校全体に広がっていくようにしたい。	・部活動を活性化させ、リーダーシップをとれる生徒を増やすことで積極的に行動したり、挨拶ができる生徒を増やす。 ・将来を見据えて敬語を意識した言葉遣いを使える生徒を増やすには進路意識を高めさせることが必要であると感じたので、進路指導部や教務部と連携を図って指導をしていきたい。
	●健康・体づくり	・望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成ができたか。	・朝食をとっている生徒の割合を80%以上に上げる。	・保健だよりや食育だより、青翔ニュースなどとおとして、食育を推進し、生徒・保護者の意識を高める。	B	・保健だよりや授業などとおして、食育に対する意識の向上を図ってきた。また、減塩に関する外部講師による指導などを取り入れ生徒の反応も良かった。さらに、清涼飲料水の糖度測定をし実感してもらった体験を行った。	・自己管理能力の育成と健康管理のため、保健だよりや教科「家庭」「保健」などを通して、生徒の健康への意識の向上に努めていく必要がある。実験的・体験的に大切さを理解してもらえよう工夫が必要である。

②基礎学力の定着 : 少人数指導、学び直しの時間、読み書きの力強化							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上		・青翔タイムの活用により基礎学力特に語彙力強化を図る。 ・調査や模試の結果を生徒に配布し、事後指導に役立てる。 ・落ち着いた学習環境を作るため、遅刻・欠席の数を昨年度より30%減にする。	・青翔タイムに全職員で取り組み、個々に応じた追指導を行う。 ・調査や模試の結果を迅速に処理し、個人成績票の配布を行う。 ・遅刻者数を減らすために、生徒指導部と連携し、生徒面談、保護者面談等を行う。	C	・青翔タイムに関しては、各学年で継続的で特色ある活動を行った。 ・調査に関しては、落ち着いた雰囲気でも受検する体制を整え、事後指導も徹底できた。 ・遅刻、欠席に関しては、昨年度より増加してしまい、具体的な対策はとれなかった。	・青翔タイムは、定期的にクラス対抗の小テストなどを意識を高める。 ・調査については、生徒が前向きに取り組めるような、分りやすく負担が少ない年間の体制を考えて対応する。 ・遅刻、欠席への対応は、生徒指導部や進路指導部、学年団と連携を取り、一貫した指導体制を整える。
	○少人数学級編制	・一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を行うことができたか。	・新しい学校生活に慣れ、目標を持った高校生活が送れるようにする。 ・学習指導においては、理解度に応じた指導を効率よく進め、クラス経営においては、教育相談や進路相談の充実を図る。	・ホームルーム、面談などあらゆる場面で一人一人の様子を観察し、声を掛ける。 ・複数の学年での少人数学級編成や、授業におけるITでの指導の機会を拡大させる。 ・産業社会と人間の授業、キャリア教育を通して卒業後の目標を明確にする。	B	・はっきりとした目標や目的を持って高校生活を送る生徒は少ないと感じる。 ・各教科から、生徒の現状に合わせた授業展開を提案され、迅速に対応できた。	・生徒との個別面談の機会を増やすことや、学年を超えた生徒への関わりを行うことを率先していく。 ・生徒の現状に適応した指導体制を作るために、教科間での密な話し合いの場を設けるような取り組みを考える。 ・進路指導部と協力し、生徒の身近な社会人として、手本になるような人間性を生徒に示す。
学校経営	○学校経営方針	・重点目標は達成できたか。	・各分掌、担任団等で、関連する重点目標を確認し、それらの項目において満足いく結果が得られる職員の割合を80%以上にする。	・分掌や担任団の主任は重点項目を考慮した活動や行事の策定を行うよう、運営委員会で確認し、目標達成への喚起をする。	B	・重点項目の達成については、目標通りには行かなかった。 ・生徒指導、生徒対応については、学年の対応は概ね良好であった。	・学年団組織の強化、分掌組織との連携強化 ・分掌組織改編に着手
③指導力の向上 : 青翔式アクティブラーニング、e-learningによる職員研修、教育相談(不登校、発達障害対応)の充実、ICTの利活用、メンター制度、資格取得の推進							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○職員の資質向上	・教員指導力が向上したか。(校内公開授業、校内外の研修)	・学習用PC、電子黒板を含めたICT利活用能力をより高める。 ・いつでも、どこでも、誰でも授業をお互いに見せ合う環境を職員間でつくる。 ・初任研、3年経過研、中堅教員研修を校内研修と連動させ、それぞれの教員が経験年数に応じて切磋琢磨できる環境にしている。 ・各種の研修会を2回以上受講する教員の割合を90%以上にする。	・経年研修には必ずICT利活用教育を絡めた授業研究会にして、校内授業研修が有機的に展開できるような計画する。 ・校外研修の内容が職員に伝わるよう会議での報告や、日報を活用した研修結果の報告をしていく。 ・青翔式アクティブラーニングの取り組みを具体化する。 ・e-learningを活用した職員研修を完全実施する。	B	・初任研修の経年研修は予定通りできた。これらの研修と校内授業研究をうまく連動させられなかった。 ・ICT利活用については、電子黒板の機器交換やSei-Netの改訂により、年間を通した活用計画をうまく構築できなかった。 ・電子黒板の機器交換により、旧型ではあるが、特別教室への配置が進んだ。 ・電子黒板の利用は頻繁であり、教材開発等は個人レベルで進んでいる。	・ICT利活用推進リーダーの専任化 ・研修会の精選と奨励。(一人の先生が多数に参加しないようにする。) ・校内研修会の促進(経年研修等との連動) ・他校の先生方との情報共有。独自の研究会発足の促進
	○業務の改革	・校務の効率化に努めたか。	・特に、「系列」の授業計画や事業の策定、実行において、役割分担を明確にし、効率よく実践展開できるよう工夫していく。 ・校務の整理や役割分担の明確化、行事の精選等に取り組む。	・前年踏襲だけではなく、常に工夫と改善心がけられる。 ・明確な分担配置、行程の明示に心がけ、運営委員会等で簡素化、効率化に取り組んだ部分を説明し周知を図る。	A	・系列の再編成を行い、進路目標と授業の連動が明確になった。 ・分掌の役割が明確になっており、業務の分担は明確である。 ・総合学科、産業教育の領域の分担がまだ明確でない。	・外部組織との連携 ・生徒発表の場の確保 ・進路指導との連携 ・資格取得の奨励 ・広報活動の充実
	○教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	・教職員のICT利活用能力は向上したか。(電子黒板、学習者用PC)	・電子黒板、学習用PCを利用した授業を実施できる教員を100%にする。 ・学習用パソコンを利用した効果的な授業を展開していく。	・校内の研修を充実させていく。 ・朝学習や授業中での利用などを通して、学習用パソコンを利用する機会を増やしていく。	C	・電子黒板、学習用PC共に本年度は入替や急な対応等が多く、各職員への周知や研修の充実ができなかった。 ・各種設備や機能の更新対応に追われ、授業での活用計画を立案・実施できなかった。	・教員個々人の活用能力の調査 ・活用し困難を感じる教員への研修参加の呼びかけと相談 ・業務の適切な振り分け
④進路指導 : 3年間を見通し、目的を持たせる進路指導、各種講演会、校外見学会、学びの基礎診断によるPDCAサイクルの展開							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●志を高める教育	・社会での有用感を生徒に醸成することができたか。	・特に地元地域で社会貢献できる人材の育成を目標として、授業や行事を展開していく。	各授業や行事、実習等で振り返りの時間や自己反省の時間を作り、社会参加の意識や社会での有用感をその都度喚起できるよう工夫する。	B	・行事の精選については効果のあったものもあった。 ・職員、生徒ともに、自己反省の機会が多かったが、時間確保が十分ではなかった。	・外部組織との連携 ・社会貢献、特にボランティア参加の機会の拡充
	○進路指導	・進路希望を達成させることができたか。	・生徒が希望する進路を実現するため、また、早期進学や離職を予防するために、キャリア教育等を通して、勤労観・職業観の育成を目指す。 ・進学および就職達成率100%を目指す。	・生徒の進路希望や進路に関する適性について、早い段階から職員間での情報共有を行う。 ・各種学校や企業等の関係強化のために、学校や企業訪問を実施する。 ・進路ガイダンス、進路講話などで進路意識を高める。	B	・産業社会と人間の時間や総合的な学習の時間、ホームルーム活動とおおむね就職や進学について、生徒が自らの進路を探る機会となった。また各学年に進路相談会等の情報発信を行った。 ・進路保障については、ほとんどの生徒が達成できた。	・就職では生徒と企業の希望のミスマッチを避けるため、受験前見学の参加を積極的に勧め、早期離職の回避等につなげる。 ・進学においても、1、2年生からのオープンキャンパス参加を奨励し、進学に関する知識を深めさせた。
⑤キャリア教育の推進 : カリキュラムの中に『総合学科の理念』を実現 1年・・・「産業社会と人間」、2年・・・「インターンシップ」、「修学旅行」、3年・・・「課題研究」							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○キャリア教育	・キャリア教育が充実したか。	・一人一人の社会的・職業的自立に向け、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」。「課題対応能力」「キャリア力」に「専門的知識・技術・技能」に関する能力の育成を目指す。	・「キャリア教育支援事業」や地域力を活用し、総合学科に特化した内容を設定。外部講師による講演会や進路学習の教材利用、各系列による校外実習等の体験活動を充実させることでキャリアアップを図る。	B	・年間の実施目標が達成できなかった。今後キャリア教育の理解を全職員に浸透させていく必要がある。またキャリア教育を単なる生徒の希望進路達成のための活動とするのではなく、生涯学習としての位置づけとしていく。	・本校が総合学科であるという意識のもとに、系列学習を活かしたキャリア教育を行う。特に系列の特色を活かした実習や実技などの体験型の活動を充実させていく。

⑥地域連携：(総合学科の系列を生かした連携活動)
 地域の良さを伝える商品開発・販売実習、玄海町からの制作依頼(美術系)、
 名護屋城博物館での「日韓交流史」、韓国語スピーチコンテストへの参加、
 韓国との交流、生活福祉系列の介護実習、環境保護のための活動
 (生徒会活動)
 玄海町民会議での意見発表、わんぱく相撲や花火大会、福祉施設夏祭り等での
 ボランティア活動、玄海町産業文化祭への出品

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○系列		・各系列の特色を活かし、校外実習や他校との連携などを行う。 ・系列の特徴を活かした地域連携の活動の機会を増やす。	・地域連携の場の設定や生徒への案内を行っている。 ・「産業社会と人間」や「課題研究」、各系列の授業において地域や企業等との連携を行う。	B	・小学校との交流や福祉事業所での校外実習など、各系列の特色が活かされた活動を行うことができた。 ・販売実習や商品開発を通じて、近隣の学校等と地域の方と連携が取れた活動ができた。	・総合学科発表会をさらに盛り上げられるよう、地域の学校や教育機関、保護者等へ本校の特色ある取り組みをさらに発信していきたい。 ・各系列の特色を活かした校外実習や同じ地域の学校との連携などを継続して行っていく。
	○生徒会活動		・玄海町民会議での意見発表、福祉施設でのボランティア活動、玄海町産業文化祭などへの参加を通じて地域住民との関わりを深める。 ・販売実習などの系列の授業との連携した活動の機会を増やす。	・生徒会の生徒を中心にボランティア部と連携し、積極的に地域の行事等に参加する。 ・系列の販売実習や地域との交流など連携を図り、地域の良さを伝えていく。	A	・玄海町民会議での意見発表に参加することができなかったが福祉施設でのボランティア活動、玄海町産業文化祭などへの参加を通じて地域住民との関わりを深めることができた。また、今年度は系列の授業で行われた販売実習を通じて地域住民だけではなく、多くの方と交流を深めることができた。	・系列の販売実習、福祉実習、校外実習等で地域に密着した活動を行う。また、地域の行事等を通じてさらに交流を図り、本校の良さをアピールしながら地域の良さを伝えていく。

⑦広報活動：青翔ニュースの、町及び中学校への配布、HPやフェイスブックの充実

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○開かれた学校づくり		・学校HPの定期的な更新を行う。 ・青翔ニュース等を通して家庭、地域へ学校の情報を発信する。 ・保護者の公開授業などの学校行事への参加数を、昨年度よりも増やす。	・本校の特色を効果的に伝えるために、発信する内容、時期を工夫する。 ・青翔ニュースを家庭や地域にも配布する。 ・各種行事への参加者数を増やすために、事前の情報発信を行う。	B	・学校HPの定期的な更新や、パンフレットの刷新を行った。 ・決まられた期限内に、青翔ニュースを発信し、学校行事や日程について、早め情報伝達できた。 ・公開授業では、参加者が増えず、学校のPRは出来なかった。	・他校のHPなどを参考に、より良いPR出来るようにする。 ・青翔ニュースを、もっと多方面にPRできるように、様々な団体へ紹介をしていく。 ・公開授業に、保護者の参加率をあげるために、町内の行事の連動、早い段階からの情報発信をしていく。

⑧いじめの未然防止と早期対応：SNSに関するHR指導、個人面談、アンケート、人権講演会等

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●いじめ問題への対応		・いじめ・体罰等対策委員会において、いじめ防止対策等を検討する。 ・事後対応についても迅速かつ円滑に対策をとれるような体制づくりと整備を行う。	・学校生活アンケートを定期的に実施しいじめの早期発見につなげる。 ・問題行動発生時には、実態調査や学年集会・全校集会を実施する等の対策を迅速に行う。	B	・いじめ防止対策委員会において、いじめ防止対策等を検討し、実施することが出来た。 ・学年との情報共有ができており、事後対応についても迅速かつ円滑に対策をとれるような体制づくりが出来た。	・年に2回、学校生活アンケートを実施し、いじめの早期発見に努めることが出来た。 ・教育相談をはじめ、全職員でさらに連携を深め、引き続き、いじめの早期発見に努めるとともに、人権尊重教育などを実施していく必要がある。

○本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進		・学校行事を精選し、役割分担を明確にすることで、教職員の業務負担の軽減に努めるとともに、年休消化率60%以上を目指す。 ・業務記録票による自発的勤務時間が月100時間を超える教職員数の数をできる限り減らす。	・定時退勤日の実践や校内立入禁止日の設定により日常業務におけるタイムマネジメントを行い、業務効率を向上させる。 ・業務記録票により自発的勤務時間を把握し、長時間勤務の教職員に対しては産業医との面談を積極的に推奨し、ケアに努める。	B	・分掌業務等の分担は明確であるが、一部再編成を検討した方がよいところがあり、その改善にまだ着手できない。 ・自発的勤務(在校等時間)の削減は進んでいないが、年休、振休の取得については順調に推移している。 ・職員のメンタルケアについては、一層の組織的対応が必要である。	・出張業務の精選、人数の削減 ・研修業務の削減、簡略化、時間短縮 ・委員会会議の回数の削減 ・学校閉庁日の拡大 ・メンタルケアの職員組織の充実
	○学校事務		・生徒が安全に安心して学校生活を送ることができるよう危険箇所などの早期発見、早期対応に努める。	・日頃から定期的に校内外を巡回する。 ・安全点検表を利用し、各担当部署とも連携をとりながら迅速な対応に努める。	A	・安全点検表で不具合のあった分については迅速に現地確認を行い改善策を検討し対応した。予算上年度内の執行が難しいものもあるが、必要に応じて予算要求を行っている。 ・日頃から定期的に校内外を巡回し、危険箇所の早期発見に努めた。また、施設をより使いやすいうように改修の提案を行い、実行した。	・日常点検や担当部署との聞き取りをもとに、限られた予算の範囲内で施設の補修を心がけ安全安心な学校づくりに努力したい。 ・厳しい予算状況ではあるが、施設の老朽化は進んでおり、今後も改修のための予算を継続的に要求していきたい。

●は共通評価科目、○は独自評価科目

4 本年度のまとめ・次年度への取り組み

- ①自律精神の育成:欠席、遅刻、早退いずれも昨年より増加した。問題行動は、1年次生において集中的に起きたが、適切に対応することができた。多様な問題を抱える生徒に対する指導では、SCの有効活用等により教職員との信頼関係が構築できており、引き続き問題解決につなげたい。さらに来年度は、生徒指導、教育相談分野、特に特別支援教育の体制作りを推進していかなければならない。
- ②基礎学力の定着:朝の青翔タイムや週末課題の実践等により基礎学力の向上を図ってきたが、一定の効果を得るまでに至っていない。少人数指導におけるきめ細やかな指導を継続しつつ、ICT利活用教育を含めて指導法の改善を進めていく。
- ③指導力の向上:ICT利活用においては、年度途中の電子黒板の入れ替えやSei-Netのシステムの変更等で利活用教育の推進は滞った。ICT推進リーダーの先生が担任業務も行われていて、業務量が過重になりかなり負担をかけた。来年度は体制作りを抜本から見直さなければならない。様々な問題を抱えた生徒があり、SCを積極的に活用することで問題の深刻化を防止ができた。
- ④進路保障:進学・就職試験の際、面接指導を中心に全職員が協力をし、きめ細やかな指導を行う体制が確立できている。さらに、保護者の協力も得ながら、より実践的な面接指導を行うことができた。結果、卒業生の進路確定に結びつけることができた。来年度は、1年生からの効果的で継続性のある進路指導を確立し、自らの進路目標に向かっての主体的な取組につなげる進路指導を実践していきたい。
- ⑤キャリア教育の推進:キャリア教育は学年ごとに充実をさせている。「産業社会と人間」のあり方について、今後も改善を重ねていきたい。また、各系列の授業が進路選択やキャリア教育の推進と連携できるよう、今後も工夫を重ねていく。
- ⑥地域連携:小学校との交流、生活福祉系列の介護実習、インターンシップ等、地域の方々と連携した教育活動を実践した。今年度は新しく情報ビジネス系列における教育活動の一環として生徒達がプロデュースした商品を開発し、実学を学ぶ取組に挑戦した。また、これと「釜山外国大学校との交流」を融合し、韓国での販売実習キャンペーンを展開することができた。名護屋城博物館での「日韓交流史」の授業や環境系列の校外授業等、地域と連携のとれた教育活動を実践した。そのような本校の教育活動を家庭や地元の方々にも知ってもらうため、本校学校新聞「青翔ニュース」を配布し本校の教育活動に理解を求めた。課題は、広報・情宣活動の充実で、来年度は積極的に展開していきたい。
- ⑦いじめ問題への取組:今年度のいじめの認知件数は4件であった。今年度は年間3回のアンケートを行い、速やかに適切な対応をとることができた。いじめに対する考え方を全教職員で共有し、今後もいじめの早期発見、未然防止を目指して取り組んでいきたい。